

令和2年度

第15回「SYDボランティア奨励賞」受賞者名簿



後援:文部科学省

「広がれボランティアの輪」連絡会議

公益財団法人日本レクリエーション協会

公益社団法人日本キャンプ協会

受賞者一覧

(敬称略・順不同)

文部科学大臣賞

北九州市立大学 地域共生教育センター
子ども食堂応援プロジェクト (福岡県)

優秀賞

【小・中学生の部】 刈谷市立雁が音中学校 (愛知県)

【高校生の部】 青森県立名久井農業高等学校
5代目 TEAM PINE (青森県)

【大学・一般の部】 ベイラー大学
ベイラー・イン・ジャパン (アメリカ)

特別賞

■ 名寄市立名寄東中学校 ボランティア部 (北海道)

■ 福島県立平工業高等学校 生徒会 (福島県)

☆第15回SYDボランティア奨励賞には、38都道府県とアメリカより[小・中学生の部]28件、
[高校生の部]28件、[大学・一般の部]13件の計69件の応募があり、選考委員会において厳
正なる選考の結果、上記受賞者が決定されました。

SYDは、1906年、東京府師範学校(現在の東京学芸大学)に学ぶ蓮沼門三を中心とする青年たちによって創立された社会教育団体です。“愛と汗の実践”を理念として「心の教育」一筋に歩み続けて115年、青少年の健全育成を中心とした様々な活動を行っており、今、みんなの幸せを願う「幸せの種まき運動」を全国的に展開

文部科学大臣賞

北九州市立大学地域共生教育センター 子ども食堂応援プロジェクト

(福岡県)

「子ども食堂応援プロジェクト」は、福岡県北九州市内の子ども食堂(計6か所)における活動に参加し、子ども達の孤食を防ぐだけでなく、子ども達と高齢者を含む大人が地域で安心して過ごすことができる居場所をつくることを目的としています。多くの利用者がいる一方で、受け入れ体制の整備や支援内容の充実化、交流促進が大きな課題となっていました。そこで北九州市子ども家庭局(以下、子ども食堂ネットワーク北九州)のご協力のもと、地域貢献活動を通して学生自身が成長できる団体、「子ども食堂応援プロジェクト」を立ち上げました。2020年11月現在、北九州市立大学に在籍する様々な学部の学生計53名の学生が所属し、授業の無い空き時間を利用して子ども食堂に出向くほか、ボランティアネットワークの拡大やイベントの企画、食を通じた募金活動などを展開しています。

子ども食堂では、一緒に食事をするだけでなく、子ども達の見守りや学習支援、一緒に思いっきり遊んだりしています。利用者にもっと楽しんでもらうため、運営者と利用者の方たちと話し合い、子どもと大人のお誕生日会や季節に応じたイベントを企画し、定期的を実施しています。また、北九州市立大学の食堂でカレーを注文すると、売上の一部が市内子ども食堂の運営資金として寄付される「カレーforチルドレン」という募金活動にも力を入れています。昨年度の実績としては、24,220円(カレー1,211食分)を寄付することができました。さらに、2019年12月には、子ども食堂ネットワーク北九州、市内他大学の学生と「北九州子ども食堂学生サミット」を合同開催。子ども食堂ネットワーク北九州主催の子ども食堂支援企業バスツアーにも参加し、企業に対する感謝状の朗読をしたほか、子ども未来アクション学習会を提案し、地域ボランティアの方々に子どもの相対的貧困について話題提供を行うなど、協働で数々のイベントを行いました。

2020年4月以降は、新型コロナウイルスの影響により大学生が子ども食堂で活動することが困難な状況が続いています。しかし、活動は休止せず、オンラインで継続的に打ち合わせを行い、学生から子ども食堂に向けてのメッセージや、自宅で楽しむことができるクイズや遊びなどを考え、8月からお手紙を発行しています。直接会うことができなくても、お手紙を通して私たちと子ども達、地域の方が繋がり合えるのだと信じています。私たち大学生は本活動を通して、共感力、課題を発見し解決する力、責任感や実行力、柔軟性、計画性、そして献身性を身に付けてきました。これらの能力はどれも重要であり、大学卒業後も子ども食堂の応援をはじめとする地域づくりに活かしていきたいです。



子ども食堂で配膳のお手伝い



クリスマス会の開催



バルーンアートづくりに挑戦!



みんな揃っていただきまーす!



カレーforチルドレン

キャンペーンの様子
(大学食堂でカレーを食べると
1食につき20円が北九州市内の
子ども食堂運営団体へ寄付され
ます。)

優 秀 賞

【小・中学生の部】

刈谷市立雁が音中学校

(愛知県)

本校には、教育目標達成のため、教師と生徒が共に大切にしている「五つの雁が音」(走る雁が音・歌う雁が音・緑の雁が音・奉仕の雁が音・あいさつの雁が音)があります。その中の一つ「奉仕の雁が音」を具現化し生徒を育てることが、生徒の居場所づくりや心を豊かにすることにつながると考え、平成14年度より、地域との連帯を密に図り、地域の行事に生徒を積極的に派遣する「地域ボランティア」を始めました。その後、地域からも理解が得られ、要請は年々増え続け、昨年度は79件の要請に対し、延べ1,000名以上の生徒を派遣することができました。

ボランティアメンバーは全校生徒で、入学時、生徒会からの学校紹介の中で、ボランティア活動が本校の伝統であることを知らされ、「ボランティア手帳」を手にします。こうして3年間のボランティア活動が始まります。活動日時や内容を知らされた生徒たちは、自分で選び応募します。希望者が多い場合は、参加できないこともあります。その分、選ばれた生徒は責任をもって参加しています。ボランティア活動に参加する度に、ボランティア手帳に押印され、手帳1冊分の押印(14個)が貯まると、校長から「ボランティア・スピリット賞」の感謝状が、学校集会の場で贈られ、生徒の自己肯定感、意欲の向上につながっています。

毎年1月、校区の4地区長に対し、次年度のボランティア派遣希望行事を調査します。主にここで要請された行事への生徒の派遣をしますが、他にも幼稚園や小学校、スポーツ団体等からの要請にも随時対応しています。他にも、隣接する市の総合運動公園では、毎年15万人が訪れる夏祭りが行われており、夏祭り翌日の早朝、「夏ボラ」と称し、毎年6割を超える生徒有志が公園のごみ拾いを行っています。また、樹木に囲まれた落ち着いた環境を守るため、校内ボランティアとして年間60回、1,000名の生徒が、落ち葉掃きや花壇の整備などの校内美化活動を行います。生徒の活動ぶりは、地域の方々からも認められ、最近では校区にとどまらず、地元サッカーチームのホームゲームや刈谷市主催のイベントからも依頼をいただくようになりました。

今年度のボランティアを見ると、募集人数に対する応募人数の割合は2.1倍です。また、昨年度、台風19号によって被災した長野県へ、生徒会役員が進んで復興ボランティアに参加し、校内募金活動へつなげました。これまでの取り組みによって、ボランティアに意欲的な生徒、そこでの経験を活かそうと考える生徒は確実に増え、地域との連帯も深まっています。今後も、ボランティア活動を継続していくため、学校の担当者への負担や生徒の安全確保、補償の問題等、一つ一つ解決していきたいと考えます。



夏ボラ2018の活動中に突然取材を受ける様子



長野県復興ボランティアで泥を掻き出す様子



地区敬老会でお年寄りを案内する様子



夏祭りで子どもに輪投げを教える様子



地区敬老会で演奏する吹奏楽部の様子



地区530(ゴミゼロ)運動で路上のゴミを回収する様子

【高校生の部】 青森県立名久井農業高等学校 5代目 TEAM PINE

(青森県)

「すべての研究は農家のために」をチームの信条に、平成29年より高所での作業減少と作業の簡略化を目的に、「農業用ドローンを活用した果樹の溶液受粉」の研究を進めてきました。本校がある青森県南部町は果樹栽培が盛んで、複数の果樹が栽培されていることから「フルーツの里」と呼ばれています。しかし、農業従事者の高齢化が進み、高所での作業が多い果樹栽培は今後減少していくことが予想されます。過疎化が進んでいる地方では、農家の人手不足が問題になっており大きな課題となっています。私たちが研究しているスマート農業は、農家が困っている部分を把握し、その課題を解決すること、そして最終的には農家に導入してもらうための技術の研究です。

2代目の先輩方が始めた研究も私達で4年目となり、60%程度、中心果の結実が確認されていることから、農家に提供できるレベルだと判断し、今年5月に実際に地元農家に技術提供を行い、受粉作業を行いました。農家の方が一人で手の届く範囲を行って3時間程度かかるところを15分で終えることができました。

また、1年生から農援支援を行い、地元南部町の農家の作業を手伝ってきました。高校の果樹の授業で覚えた作業をそのまま果樹農家で活用できることから、即戦力として役に立つことができます。土日の部活動が終わった後に、農家での剪定枝の後片付けや摘果作業、着色管理作業、収穫作業を年間に渡って数回行ってきました。特に高いところでの作業が多い果樹栽培は、高齢の方が行うと一苦労です。7月に70代の農家に手伝いに行き、2人で2週間はかかるところを高校生6人で効率良く作業することで、4時間で終わることができました。

農業用ドローンを活用した受粉は、全国的に見てもまだ行われておらず、2代目の先輩方が平成29年の日本土壌肥料学会で発表するまでは、誰も行ってない独自の研究でした。そのため、独創性と新規性に優れた研究であり、地元の農家の方々の期待を背負っている研究でもあります。今年は、新型コロナウイルスの影響で学校も休校になり、外部での活動が制限され、春先はあまり活動ができませんでしたが、それでも多くの方が感染対策をしっかり行い、協力して受粉作業を行うことができ、地域との密接な活動ができました。私たちは卒業してしましますが、この研究を後輩達に託し、SDGsの目標達成である2030年には農業用ドローンでの受粉が南部町のスタンダードになって欲しいです。また、現在研究中のサクランボの低木化とスマート農業の研究を進め、持続可能な町作りを先導し、地域に必要とされる活動にしていきたいと思えます。



受粉ボランティアを行った園主の川守田義雄さんと



川守田義雄さんの園地で受粉作業の様子



1年次に工藤さんの農園で収穫ボランティアの様子



2年次にナシ農家の山内さんの摘果ボランティア後に軽トラで



3年次に工藤さんの農園で摘果ボランティアの様子
6人で一気に摘果作業!!地面は摘果したリンゴの海に・・・



摘果ボランティア後に1枚1年次からお世話になっている工藤さんと

【大学・一般の部】

バイラー大学

バイラー・イン・ジャパン (アメリカ)

本活動は、米国テキサス州にあるバイラー大学の短期プログラムであり、地球規模での社会貢献を推し進められる世界的なリーダー育成をミッションに、日本でのボランティア活動を実施している。毎年6月から7月にかけて4週間、日本語学習者のための留学プログラムの一環で、その特徴は、すべてのボランティア活動が国際交流を兼ねた地域密着型であること、留学生だけでなく日本の子供から、高齢者、障がい者に至るまで、多様な人々との異文化相互理解に貢献している点である。

2012年より毎年、我孫子市・気仙沼市・南三陸町の同じ地域で活動することで、地元の方々から信頼を得、近年では私たちの訪問を楽しみにしていただけるようになった。我孫子市のげんきフェスタでは、テントの設営や地元のジュニアクラブが企画するお化け屋敷設置・運営・撤去作業、福祉協議会の和遊びブース運営のサポートを行っている。知的障がい者施設「風」のお手伝いは、ゲームやお話の交流、施設運営収入源のうどんやラッキョウ作り等である。東日本大震災被災地でのボランティア・交流活動は、訪日前に寄付で集めた英語の絵本を被災地の子供達や学校に寄付(合計650冊以上)している。小学校訪問では歌や英語の交流、保育園では英語の絵本の読み聞かせや体操、地元のジュニアバレーの子供たちとは親善試合とカレーライスの交流を続けている。その他、仲良し農園の草むしりや海岸のゴミ拾いなども行った。2017年からは、災害公営住宅の高齢者の方々とグランドゴルフの交流や東北大学の学生グループと協働で被災地の方々のインタビュー活動も行っている。

今年は新型コロナウイルスの影響で日本行きがキャンセルになったが、2019年の活動を通じて南三陸震災伝承館企画担当者と面識を得て、現在は遠隔で日本の大学生との協働により被災者の語りの英訳のお手伝いをしている。新たに遠隔からのボランティア活動の手段の多様性を発見できたので、引き続き海を越えた遠隔ボランティアの可能性を探っていきたい。また、新型コロナウイルス終息後には、我孫子市で子ども食堂の支援活動も検討する予定である。

8年間続いた活動は、留学生にも日本人にも好影響を与えている。学生たちからは、様々なボランティア活動を通して人間の優しさや生命力、絆の強さを学び、将来積極的にボランティアをしたいとコメントがあった。今後は活動後のアンケートを日本人にも実施し、将来の活動に役立てたい。



我孫子市障がい者福祉施設みんなの広場「風」で交流をしながらラッキョウ作りのお手伝い



我孫子市のげんきフェスタでボランティアの様子



南三陸町志津川保育園で園児たちに英語の本の読み聞かせ



南三陸町復興コミュニティガーデンでの草むしり



南三陸 災害公営団地の住民の方々とグランドゴルフ後のお話会



南三陸馬場中山の海岸のゴミ拾い

特別賞

名寄市立名寄東中学校ボランティア部

(北海道)

私たちボランティア部には現在15名が所属しており、明るく楽しくをモットーに、広く周囲や社会に貢献していけるような様々な活動を行っています。例年行っている活動としては、夏休み期間を利用した高齢者デイサービスのお手伝い、福祉センターで開催されるイベントの協力、校内での活動などです。デイサービスでは、洗濯物のアイロンがけや入浴介助、食事準備の手伝い、ご高齢の利用者の方々に楽しんでいただけるようミニ縁日の企画、実施等の活動を行っています。福祉センターで開催されるふれあい広場では、車いす・点字・ボッチャの体験コーナーでのお手伝い、着ぐるみ担当、会場設営、片付けなどを行い、イベント協力をしています。校内では、緑の募金・赤い羽根共同募金等の各種募金活動、ゴミ拾い、緑化活動、ベルマーク等各種回収活動などを行っています。

今までは、北海道胆振東部地震や台風19号災害の被害の現状を知り、被災地への募金活動も行いました。また、海外にも目を向けようと考え、ユニセフ募金も行い、感謝状をいただくこともできました。今年はコロナの影響で、例年参加協力してきたイベントが中止となったため、自分たちでできることを話し合い、美術部とちぎり絵を共同制作して高齢者施設へプレゼントしました。さらに、授業中にマスクを着用していると息苦しく話しにくいだろうと考え、フェイスシールドを作り、先生方へプレゼントしました。マスクが足りない時期には、手に入りにくい人のためにマスク作りもしました。

私たちは、より多くの方々に喜んでもらえ、役に立てることをしようと、日々考えながら活動しています。そして、様々な活動を通して誰かのためになり、人に喜んでもらうことの喜びを学びました。これからも皆で協力し、誰かのためになるような活動をしていきたいです。また近年では、活動が広まった影響からか、大学のサークルなど他団体からイベントの協力を依頼されることが出てきたので、積極的に協力しボランティア活動を広めていきたいと思っています。そして本校のボランティア部としては、部員を増やし活動を広げていきたいです。部員が増えれば、たくさんの活動ができ、社会に貢献できる機会が増えるからです。そして、ボランティア活動を通して人の役に立てることの喜びを新しい部員にも感じてほしいです。



「募金活動の様子」災害の様子が分かるよう、写真入りチラシを持って呼びかけました。



「緑化活動」緑の募金を活用し、花苗等を購入。校舎周辺に花を植え、日々世話をしています。



「ちぎり絵の贈呈」美術部との共同制作をコロナ禍のため訪問できなかった高齢者利用施設へ贈呈しました。



←「校舎周辺の清掃活動」今年度は学校外での活動制限があり、校内活動に力を入れました。



←「ふれあい広場サポート」毎年地域で活動しています。



「デイサービス訪問」例年は高齢者利用施設へ訪問し、利用者の方々との交流などを行っています。

福島県立平工業高等学校生徒会

(福島県)

本校生徒会の活動は、「もったいない精神」で社会貢献できないかという思いから始まり、現在まで20年間、「すべては喜んでくれる人たちの笑顔のために」という理念のもと活動を続けています。アルミ缶回収を始めたことをきっかけに、ジャージ・運動靴の回収やペットボトルキャップの回収が始まり、近年では、新型コロナウイルス感染症対策の活動や、自然災害ボランティア活動が生まれました。

新型コロナウイルス感染症対策では、長期間の休校での学習の遅れを取り戻すため、図書館を有効活用できるよう、飛沫感染症防止対策として衝立を制作しました。近隣の中学校へも声をかけたところ、3つの中学校から依頼を受け、学校ごとの机の大きさに合わせた衝立を一つ一つオリジナルで作成し、計16セットを寄贈しました。校内では、新型コロナウイルス感染症拡大防止啓発活動を行い、朝の挨拶運動時に横断幕を掲げ、多くの生徒の意識向上に繋がったり、保健の先生のご指導の下、校舎内の除菌活動を行ったりしました。

令和元年の台風19号では、本校も被害を受け長期間休校になりましたが、その期間生徒会の呼びかけがきっかけで、災害ボランティアが立ち上がる前から本校生徒約100名が被災地域に出向き、ボランティア活動を行いました。ジャージ・運動靴の回収は、15年間継続している活動で、卒業時にそれぞれ寄付してもらい洗濯してマリ共和国へ贈っています。輸送費は、全校生徒や職員の方々からの募金等で集めています。

長年に渡り活動を継続出来ているのは、たくさんの方々の協力・支えがあるからです。これまでに、たくさんの新聞やテレビ等のメディアに取り上げていただいたこと、様々な大会等に積極的に参加したことで、活動を知り、支援して下さる地域・企業の方々が増え、遠方から物資が送られてくることも多くなりました。協力して下さった方には、感謝の気持ちを込めてお礼状を贈っています。活動の中で、沢山のひとと関わり交流することで、コミュニケーション能力が養われました。また、活動を自分たちで考え・計画・実行することで、達成感や充実感を味わうことができ、活動への愛着心がうまれました。これからも感謝の気持ちを忘れず活動をしていきます。そして、本校生徒会が主催で毎年行っている他高校との合同研修会や外部の研修会、イベントの機会を活用して、ボランティアの輪を広げ、仲間を増やしていきたいと考えています。



学校環境整備に係る飛沫感染防止対策



校舎内の除菌活動



令和元年度東日本台風19号ボランティア参加



第15回支援物資発送式
(アフリカマリ共和国へ)



ペットボトルキャップ回収による
世界の子供達にワクチンを贈る活動



アルミ缶回収による老人ホーム
への車椅子の寄贈

第15回 SYDボランティア奨励賞 実施要項

公益財団法人修養団では、昭和57年より平成13年まで「蓮沼門三社会教育奨励賞」により多くの優れた社会教育活動を実践した個人、グループ・団体を顕彰して参りました。この実績を踏まえ、平成18年に創立100周年を記念し、新たに「愛と汗の精神」を信条とする《幸せの種まき運動》の実践者を顕彰する「SYDボランティア奨励賞」を設立しました。

主 催：SYD（公益財団法人修養団）

後 援：文部科学省

「広がれボランティアの輪」連絡会議

公益財団法人日本レクリエーション協会

公益社団法人日本キャンプ協会

1. 趣 旨

今日、次代を担う青少年の健全育成はますます重要な課題となっている。そこで、ボランティア活動の分野で著しい活動を実践し、優れた業績をあげたグループや個人を顕彰することにより、青少年のボランティア活動を促進するとともに、活動の習慣化を図り、生きる力や豊かな心を育むなど青少年の健全育成に寄与する。

2. 対 象

原則として、ボランティア活動を実践している学校（生徒会、クラス、クラブ等）やPTA、子ども会等のグループ及び個人

3. 選考基準

次の項目に該当し、高い評価を得られたもの

- (1) ボランティア活動の分野で著しい活動を実践し、優れた業績をあげ、今後の活動に期待のできるもの
- (2) ボランティア活動に創意工夫や新しい方策を取り入れ、新機軸を拓き、今後の活動に期待のできるもの
- (3) ボランティア活動を受け入れ、施設の利用、改善、充実に努め、活動の活性化に寄与している施設またはそれを推進する活動
- (4) 青少年の健全育成を目的としたボランティア活動を実践し、将来が期待されるグループ及び個人

4. 選考方法

学識経験者等8名に選考委員を委嘱し、選考委員会にて決定する。

5. 表 彰

文部科学大臣賞 1点

クリスタルトロフィー（表彰状）、副賞（活動奨励金20万円またはSYD「青年ボランティア・アクション in フィリピン」へ2名招待）

優 秀 賞 3点

クリスタルトロフィー（表彰状）、副賞（活動奨励金10万円）

特 別 賞 2点

クリスタルトロフィー（表彰状）、記念品



6. 贈呈式

新型コロナウイルスの感染拡大により、動画贈呈式とし、SYDのホームページ等で公開する。

7. 募集方法

都道府県教育委員会、社会教育団体、青少年団体、学識経験者およびSYD組織、関係者に推薦を依頼するとともに、新聞、雑誌等のマスコミに広報を依頼する。

8. 応募方法

所定の様式に必要事項を記入し、活動報告書の上に添付して下記まで送付する。

9. 締め切り

令和2年11月30日

10. 申込み・問合せ先

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-25-2 SYD ボランティア奨励賞 係

TEL : 03-3405-5441 FAX : 03-3405-5424

E-mail : info@syd.or.jp <https://syd.or.jp/>

| 選 考 委 員 | | (順不同・敬称略) |
|---------|----|---------------------------------|
| 明石 | 要一 | (千葉大学名誉教授、千葉敬愛短期大学学長) |
| 鈴木 | 優子 | (前[学]立教女子学院理事・法人事務局長) |
| 長沼 | 豊 | (学習院大学教授) |
| 仲野 | 好重 | ([財]人間塾代表理事・塾長) |
| 松澤 | 宏尚 | (全日本中学校長会事務局長) |
| 山田 | 一功 | ([社]ひかりの里理事長、[公]日本PTA全国協議会元副会長) |
| 御手洗 | 康 | ([公財]修養団理事長) |
| 山崎 | 一紀 | ([公財]修養団主幹) |

過去受賞者一覧

(敬称略・順不同)

第1回(平成18年度)

文部科学大臣賞
優 秀 賞

京都市立京都御池中学校(京都府)
【小学生の部】鏡石町立第一小学校(福島県)
【中学生の部】庄原市立東城中学校(広島県)

*【高校生の部】該当なし

【大学・一般の部】合同ボランティアネットワーク(神奈川県)

特 別 賞

◆国崎翠・吉居夏奈(北海道)◆美幌町青少年育成協議会(北海道)◆喜多方市山都第一小学校(福島県)◆熱海市立小嵐中学校(静岡県)◆加藤ひとみ(岐阜県)◆伊江村立伊江中学校(沖縄県)

第2回(平成19年度)

文部科学大臣賞
優 秀 賞

香川県立多度津水産高等学校(香川県)
【中学生の部】木更津市立鎌足中学校(千葉県)

*【小学生、一般の部】該当なし

【高校生の部】学校法人高倉学園豊橋中央高等学校(愛知県)

特 別 賞

◆天草市立城河原小学校(熊本県)◆志布志市立通山小学校(鹿児島県)◆東横学園中学・高等学校 中学2年(東京都)◆多治見市立多治見中学校(岐阜県)◆神奈川県立相原高等学校「相こっこプロジェクト」(神奈川県)◆熊本県立盲学校(熊本県)◆立命館大学国際部国際協力学生実行委員会(京都府)◆ブラジルを美しくする会(ブラジル)

第3回(平成20年度)

文部科学大臣賞
優 秀 賞

学校法人篠ノ井学園 長野俊英高等学校 郷土研究班(長野県)

*【小学生の部】該当なし

【中学生の部】新宮町立新宮中学校相島分校 相島少年消防クラブ(福岡県)

【中学生の部】2008年度屋久島町立小瀬田中学校2年生「笑顔」プロジェクト(鹿児島県)

【高校生の部】更級農業高等学校 農業クラブ 農業応援団「ねこの手隊」(長野県)

特 別 賞

【大学・一般の部】八雲ジュニアサポーターズクラブ(島根県)

◆尾道市立三幸小学校(島根県)◆鳴門市第一中学校 ボランティア部(徳島県)
◆富山県立小杉高等学校 生徒会(富山県)◆富貴中おやじの会(愛知県)
◆高知朝倉里山を造る会(高知県)

第4回(平成21年度)

文部科学大臣賞
優 秀 賞

豊田市立崇化館中学校 麦の会(愛知県)

*【一般の部】該当なし

【小学生の部】日吉子どもサミット(滋賀県)

【中学生の部】名古屋市立はとり中学校(愛知県)

【高校生の部】中央学院高等学校 生物部(千葉県)

特 別 賞

◆S Y D北海道クラブ(北海道)◆横浜市立岡村中学校(神奈川県)◆長野県飯田風越高等学校国際教養科3年(長野県)◆みんなでつくる学校 とれぶりんか(大阪府)◆広島文化学園短期大学 食物栄養学科(広島県)

第5回(平成22年度)

文部科学大臣賞
優 秀 賞

高知大学 高知子ども守り隊 守るんジャー(高知県)

*【小学生の部】該当なし

【小学生の部】御前崎市立御前崎小学校(静岡県)

【中学生の部】京都市立嵯峨中学校(京都府)

【高校生の部】江楠学園 北陵高等学校 生徒会(佐賀県)

【大学・一般の部】東海大学海洋学部環境サークル E.C.O(静岡県)

特 別 賞

◆清水町立清水中学校 劇団8・9組(静岡県)◆宮城県立塩釜高等学校地活生化班 塩釜ぼんぼん(宮城県)◆愛知県立日進高等学校(愛知県)◆京都精華大学 ホスピタルアートボランティアグループ(京都府)

第6回(平成23年度)

文部科学大臣賞
優 秀 賞

善通寺市立東中学校 ボランティア部 (香川県)
【小学生の部】御蔵島村立御蔵島小中学校 黒潮会 (東京都)
【中学生の部】港区立青山中学校 お話会 (東京都)
【高校生の部】岡山県立久世高等学校 家庭クラブ (岡山県)
【大学・一般の部】西部点字パソコンサークル・ステップ(静岡県)

特 別 賞

◆大和市立渋谷中学校 (神奈川県) ◆新潟県立柏崎工業高等学校 防災エンジニアコース3年生、2年生 (新潟県) ◆栃木県立栃木農業高等学校 村おこしプロジェクト班 (栃木県) ◆出雲西高等学校 インターアクトクラブ (島根県) ◆播磨マリンクルー (兵庫県)

第7回(平成24年度)

文部科学大臣賞
優 秀 賞

埼玉県立桶川西高等学校 科学部 (埼玉県)
【小・中学生の部】藤岡市立東中学校 生徒会 (群馬県)
【高校生の部】盈進中学高等学校 ヒューマンライツ部 (広島県)
【大学・一般の部】旭川医科大学 育児院学習サポート(北海道)

特 別 賞

◆喜多方市立第三小学校 (福島県) ◆V . C . イヤリング (愛知県) ◆東京
都立大島海洋国際高等学校 ボランティア部 (東京都) ◆網地島ふるさと楽好
(宮城県)

第8回(平成25年度)

文部科学大臣賞
理事長特別賞
優 秀 賞

鳥取大学 障害児教育研究会 (鳥取県)
石巻市立牡鹿中学校「笑顔創造プロジェクト」(宮城県)
【小・中学生の部】宇都宮市立泉が丘中学校 (栃木県)

*【大学・一般の部】該当なし

特 別 賞

【高校生の部】京都府立宮津高等学校 建築科 (京都府)
◆北海道小樽工業高等学校ボランティア同好会 (北海道) ◆福島県立平工業高
等学校 生徒会 (福島県) ◆身延山高等学校 手話コミュニケーション部 (山
梨県)

第9回(平成26年度)

文部科学大臣賞
理事長特別賞
優 秀 賞

いなべ市立大安中学校テクニカルボランティア部 (三重県)
東洋大学学生ボランティアセンター (東京都)
【小・中学生の部】塩尻市立檜川中学校雪かきボランティア (長野県)
【高校生の部】岩手県立久慈工業高等学校 (岩手県)

*【大学・一般の部】該当なし

特 別 賞

◆青森県立名久井農業高等学校 TEAM FLORA PHOTONICS (青森県) ◆未吉
っ子支え隊 (愛知県)

第10回(平成27年度)

文部科学大臣賞
理事長特別賞
優 秀 賞

熊本市立天明中学校 生徒会 (熊本県)
千葉黎明高等学校 (千葉県)
【小・中学生の部】沼津市立片浜中学校 生徒会 (静岡県)
【高校生の部】山口県立柳井商工高等学校まちづくりプロジェクトチーム(山口県)
【大学・一般の部】西九州大学 ESRDサークル (佐賀県)

特 別 賞

◆渋川市立渋川南小学校 (群馬県) ◆北海道函館水産高等学校 北のくにづく
り 2015 (北海道) ◆高知県立中村高等学校西土佐分校 地域ボランティア隊 R
a p p o r t (高知県) ◆国際基督教大学 劇団虹 (東京都) ◆摂南大学 ボラ
ンティア・スタッフズ (大阪府)

第11回(平成28年度)

| | |
|----------------|--|
| 文部科学大臣賞 | 豊後高田市立戴星学園 (大分県) |
| 理事長賞 | 神奈川県立吉田島高等学校 草花部 (神奈川県) |
| 優秀賞 | 【小・中学生の部】唐津市立浜玉中学校 (佐賀県) |
| *【大学・一般の部】該当なし | 【高校生の部】大森学園高等学校 おもちゃの病院 (東京都) |
| 特別賞 | ◆長野県下高井農林高等学校 園芸福祉クラブ (長野県) ◆九中校区すこやかネット (大阪府) |

第12回(平成29年度)

| | |
|----------------|------------------------------------|
| 文部科学大臣賞 | 兵庫県立舞子高等学校 天文気象部 (兵庫県) |
| 優秀賞 | 【小・中学生の部】名古屋市立北山中学校 ボランティア部 (愛知県) |
| *【大学・一般の部】該当なし | 【高校生の部】東京都立大島高等学校 カメリアユナイテッド (東京都) |
| 特別賞 | ◆広島県立広高等学校 書道部 (広島県) |

第13回(平成30年度)

| | |
|---------|---|
| 文部科学大臣賞 | 多摩市立東落合小学校 ゴミ出しボランティア (東京都) |
| 優秀賞 | 【小・中学生の部】北九州市立霧丘中学校 特別支援学級「econnect project」(福岡県) |
| | 【高校生の部】宮城県名取北高等学校 奉仕活動部 (宮城県) |
| | 【大学生の部】BLUE WALK (愛知県) |
| 特別賞 | ◆名古屋市立工芸高等学校 WEB部 (愛知県) ◆名城大学 ボランティア協議会 (愛知県) |

第14回(令和元年度)

| | |
|----------------|---|
| 文部科学大臣賞 | 島根県立大学 献血サークル あかえんぴつくん (島根県) |
| 優秀賞 | 【小・中学生の部】稲城二中シンガーズ (東京都) |
| *【大学・一般の部】該当なし | 【高校生の部】名古屋市立工芸高等学校 防災チーム (愛知県) |
| 特別賞 | ◆復興支援東北の物産販売 高校生プロジェクト in 岩見沢 (北海道) ◆宮城県農業高等学校 次世代の被災地語り部ボランティア (宮城県) |



SYD 『幸せの種まき運動』

ーみんなでまこう！幸せの種ーをスローガンとして、まわりの人々に、社会に、一粒でも多くの‘幸せの種’をまいていこうという運動です。

さりげなく、よろこんで、出来るだけ‘幸せの種’をまいていきましょう。

種をまくときは、あなたの“笑顔”という栄養分を添えて！

《三つの‘幸せの種’》

☆こんにちは！という

‘ふれあいの種’

☆どうぞ！という

‘思いやりの種’

☆ありがとう！という

‘よろこびの種’

